

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	サンクスラボ・アフタースクール鹿児島		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 20日		2026年 2月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	2026年 1月 20日		2026年 2月 5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	相談支援事業所と連携した療育体制の構築	定期的な情報共有と迅速な連携対応 定期的に相談支援専門員と児童の特性や支援状況について情報共有を実施 個々の状況に合わせた支援計画の作成につなげている 緊急時には速やかに相談員と連携し、適切な対応を行っている 日頃から顔の見える関係づくりを意識し、密な連携体制を維持しています。	連携強化と専門性向上の取組 来期も相談支援事業所と定期的なスケジュールを組み、計画的に交流・協議の場を設ける 定期的なケース会議や情報共有の機会を設定する 連携状況や取組内容を新聞発行等で発信し、保護者や関係機関への周知を図る 今後も継続的・計画的な連携体制を構築し、より質の高い支援の実現を目指します。

2	IT療育に特化した支援と専門職による個別療育の実施	<p>興味関心を活かしたICT活用と専門的アセスメントの実施 興味・特性に応じたPC教材やプログラムを活用し、成功体験を積み重ねている できたという達成感を大切に、学習意欲の向上につなげている 理学療法士がアセスメントを行い、個々の発達状況を把握している 個別計画に基づき、運動療法や個別活動を実施している 専門性と楽しさの両立を意識した療育を行っています。</p>	<p>プログラミング教育の強化、個別支援の深化 LEGOスパイクを活用したプログラミング学習を導入し、創造性や問題解決能力の育成を図る 理学療法士による評価をより充実させ、専門的支援計画の質を向上させる IT療育と運動療法を組み合わせ、多面的な発達支援を行う 今後も専門性を高めながら、時代に即した学びと発達支援の充実を目指してまいります。</p>
3	主体性を育てる日々の活動支援と、個を尊重した集団療育	<p>楽しみの中に学びを取り入れた活動設定と丁寧なグループ編成 おやつ選びでは、金額を意識しながら自分で計算する機会を設けている 活動の中に「楽しい」と感じられるポイントを意識的に取り入れている 学年や発達段階、相性などを考慮してグループ分けを行い、内容を設定している 集団活動の中でも個々の意見や気持ちを尊重している 活動の目的を明確にしなが、安心して参加できる環境づくりを心がけています。</p>	<p>個別性のさらなる充実と活動内容の発展 一人ひとりの「やりたいこと」「得意なこと」をより具体的に把握し、活動内容へ反映させていく 金銭学習や生活体験の機会を計画的に取り入れ、実践的な力の向上を図る グループ活動と個別支援のバランスをより高め、個の成長と社会性の両立を目指す 今後も、楽しみながら学べる環境づくりを継続し、児童・生徒一人ひとりの可能性を広げていきます。</p>

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族支援プログラムの不足	<p>実施機会・周知および体制調整の不足 社内にペアレントトレーニングを実施できる人材はいるものの、年間計画への位置付けや周知、実施スケジュールの調整が十分ではなかったため、実施機会を確保できていませんでした。</p>	<p>既存人材を活かした計画的実施体制の構築 社内の有資格・実施可能職員を中心とした実施体制を整備する 年間計画に組み込み、定期開催できる仕組みを作る 保護者へ事前に周知し、参加しやすい日程設定を行う 研修後のフォロー体制や相談機会を設け、継続的な支援につなげる 社内の専門人材を活かし、計画的・継続的な家族支援の充実を図ってまいります。</p>

2	ワンフロア構造による環境面の制約	<p>物理的環境による刺激のコントロールの難しさ 空間が完全に分離されていないため、音や動きの影響を受けやすい 活動内容の特性によっては干渉が生じやすい 感覚特性や集中力に課題のある児童にとって刺激が多くなる場合がある 構造上の制約により、環境調整に限界があることが要因と考えられます。</p>	<p>環境調整と活動構成の工夫 活動時間をずらすなど、静と動の同時実施を避ける工夫 吸音材や防音対策の強化を検討する 集中スペース（個別ブース等）の確保を工夫する 児童の特性に応じて活動場所や座席配置を調整する 少人数グループ編成による刺激の軽減 物理的環境の制約を踏まえつつ、運営面での工夫により、より集中しやすい環境づくりに努めてまいります。</p>
3			